

# 修学旅行先が変わりました

思い出深い須崎の町

笠松中学校の三年生が、修学旅行で、伊豆半島の下田にある小さな漁村「須崎」に行くようになったのは、平成五年度からです。三日間は「須崎の子になる」を合い言葉に、民宿のおじさんやおばさんと家族同様のつきあいをして、漁村生活を十分堪能させてもらっていました。

また、夜は、自分たちの合唱を地域の皆さんに披露して楽しんでもらうなど、いつまでも忘れられない思い出一杯の活動でもありました。

新しい研修先は「広島」

そんな須崎の魅力は今でも失せていませんが、往復に時間がかかり過ぎることや、学習活動の内容が限られているなど、問題点もありました。

学校でいろいろ検討した結果、十七年度から修学旅行の研修先を「広島」に変えました。三年間の研修活動を系統づけ、それぞれテーマを設けて、「総合的な学習の時間」の活動と有機的に結びつけながら展開できるものにした、という願いによるものです。

生徒の中には、先輩の話を聞いて、須崎へのあこがれを持っていた子もいたかもしれませんが、広島での充実した活動が、新しい良さや印象深い思い出をもたらしてくれると思っています。

生徒の中には、先輩の話を聞いて、須崎へのあこがれを持っていた子もいたかもしれませんが、広島での充実した活動が、新しい良さや印象深い思い出をもたらしてくれると思っています。



笠松町道徳教育連絡会議

十五歳の今だから

新しい研修のテーマは「平和・人権」です。誰もが考え、守っていかねばならない課題です。当然、中学生である生徒たちも例外ではありません。というよりも、若い、みずみずしい感性の今だからこそ、

現地に足を運び、自分の目で確かめ、話を聴き、体験者の言葉だけでなく、空気さえも感じ取ってきてほしいと思っています。

戦争と繁栄の二十世紀から、共存と成熟の二十一世紀へ。その主役を担う生徒たちが、こうした研修を通して、真剣に「みんなが幸せに暮らせる世の中」について考え、自分の生き方として歩み始めてくれたらと願うばかりです。

笠松中学校  
校長 赤木 重義



教育委員会  
だより

## 地域の歴史に親しむ

「社会科の授業って難しくてわからんもん！」との声が子どもたちからよく聞こえてきます。しかしながら、そんな子どもたちも、身近な題材を教材として提供した授業では事情が一変します。例えば、中学一年生では、戦国時代を学ぶ歴史の授業で、漠然と『織田信長公』を取り上げるのではなく、紀伊長島町の一向一揆と織田信長」というように取り上げることにより、自分自身でデータを揃えたりしながら、「ええ〜！そうかなあ?」「でもさあ:」と意見がふくらみ、授業がどんどんと盛り上がったものです。

さてさて、紀伊長島町にまで足を運ばなくとも、私たちの町にも歴史ロマンを感じさせる建造物や街道がいくつもあります。岐南町の『如意寺』には、荒削りのなた彫りで有名な円空作の仏像「合掌像・大黒像・神像」が、柳津町の『正蓮寺』には、天保年間にケヤキ板に彫刻された、江戸後期の名工で信州諏訪出身の立川和四郎富昌作の見事な欄間が、そして笠松町には、明治の初めに県庁が置かれ、岐阜市に移るまで岐阜の中心であった陣屋跡が……。その他にも歴史の重みを感じることができ、文化財や文化的価値の高いものがあちこちにあります。「ウォーキングマップ」というオールカラーの冊子がお手元に届いていることと思います。友人やご家族と連れだって、冊子を片手に是非ともわが町を歩いてみてください。

今、地域住民である私たちが、私たちの町の歴史に親しみ、友人や知人との話題にのせながら子どもたちへも伝承していったなら、そんな素敵なことはありませんよ。

教育電話相談

～悩んだら気軽に電話してください～

羽島郡三町教育委員会

☎245-1133